

○障がい者団体インタビューまとめ

①障がい福祉サービス等について

【サービス全般】

- ・介護人材の確保・定着が課題。サービスを利用したいと思っても、人手不足で利用できないことがある。
※サービスの需要と供給のアンマッチ
- ・支援が必要な人はたくさんいるが、そこに支援の手が届いているのか不安。
- ・市有地（保育所・幼稚園が統廃合により空き地になっているところ）に民間事業者を誘致して欲しい。

【訪問系サービス・移動支援（ヘルパーさん）】

- ・ある程度家族が介護しているケースが多いと思うが、親も歳を重ねていくため今後が不安。
- ・ヘルパーさんの確保が難しく、かなり前から予約しておかなければ利用できない。急な対応が難しい。

【日中活動系サービス（生活介護等通所）】

- ・芦屋市内の通所先が少ない。
- ・送迎がない事業所は親にとって負担が大きいため選択しづらい。特に親が高齢になってくると送迎を親がするのも難しくなる。送迎に対する支援策は何かできないものか。
- ・学校に通学している間は放課後等デイサービスがあったが、成人になり通所後の居場所がない。
※これまで親も就労できていたが、通所後午後4時くらいに家に帰ってくるため、就労が難しい
- ・市内で重度の方が通所できる事業所が少ない。

【居住系サービス（グループホームなど）】

- ・親が高齢になった際にはグループホームを利用させたいと考えている。
- ・グループホームの数が少ないため重点的に整備するよう取り組んで欲しい。市外にグループホームがあることは分かっているが、やはり「住み慣れた地域でいつまでも暮らす」ことができればという思いがある。
- ・グループホームを市内に誘致するなど、もっと充実させて欲しい。
※精神科病院入院者の地域移行の促進、退院時の生活訓練の場、8050問題への対応など、必要性は高い
- ・市内にある空き家をグループホームに活用できないか。市立の施設を建てることは難しいと理解しているが、例えば業者のあっせんや、空き家の持ち主にグループホームへの転用を促す、などの取組をして欲しい。
- ・短期入所の利用日数を増やしたいと思い支給量を増やしてもらったが、結局事業所が少ない・対応できないことが多いため利用できないことが多い。

【児童サービス】

- ・年々放課後等デイサービスの利用者が増えていると聞いたが、需要と供給はマッチしているのか。
- ・現在芦屋市では放課後等デイサービスを新規開設したいと考えていても、総量規制のため開設できないと聞いているが、実態として市外の放課後等デイサービスに通所させているのであれば、総量規制についてももう少し柔軟に対応して欲しいと思う。
- ・放課後等デイサービスで単なる預かりになっている事業所があると聞いたことがある。
- ・今後社会に出ていくためにも、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を学べる事業所や交流会・勉強会があればいいと思う。

○障がい者団体インタビューまとめ

②相談支援について

- ・サービスの利用者が増えているにもかかわらず、相談員さんは増えていない。
※もっと増えるように市の支援が必要
- ・相談員さんが定着するように支援して欲しい。
- ・相談員さんによって情報量（どれだけ地域資源を知っているか）に差があるように感じる。
- ・例えば発達障がいに関する専門家など、専門的に訓練してくれる人材が少ないように感じる。
- ・市全体として、障がい・高齢・児童など、それぞれの分野における相談支援は進んできているが、コロナを契機に生活困窮者など新たな課題も出てきているので、関係機関との連携、サービス内容の一層の充実を図って欲しい。
- ・子どもの発達障がいに関する相談が増えているが、その相談ニーズに応える体制としては十分ではないと感じる。
専門的な相談支援ができるための工夫が必要。

③障がいのある人の就労について

- ・芦屋市で就労できる場所が少ない（一般就労・福祉的就労問わず）。
- ・幅広く選択できるように、選択肢を増やして欲しい。
- ・就労継続支援B型は増えてきているが、一定の賃金がもらえる一般就労・就労継続支援A型がもっと増えればいい。
- ・市役所で障がい者雇用が増えているのはいいことなので、他にも受け入れられる部署がないか検討して欲しい。
- ・指定管理、業務委託をする業者を決める際に、障がい者雇用の有無を評価できるような仕組みを作って欲しい。
- ・イベントやコープでの授産品販売などいい取り組みをしていると思うので、さらなる取り組みを実施して欲しい。

④社会参加・交流活動について

- ・親の会が中心となり昨年度末から実施している「つむぐ広場（障がいのある人の夕方の居場所）」について、①職場・通所先以外の人と交流できるが、遅い時間帯までいることが可能な場所が少ない、②保護者の労力に頼るところが多いため負担が大きい、③交通の便の良い場所があればいい、と感じる。
- ・運動会や年末のつどいがなくなったので、それに代わるイベントがあればいい（みんな楽しみにしているが、市で実施できないのであれば、他の手法も含め協議できればと思う）。
- ・地域住民と障がいのある人の交流を図るための具体的な交流活動の企画提案が欲しい。
- ・手をつなぐ育成会が基幹相談支援センターなどと協働して実施している「おむすび隊」の活動については、福祉現場だけではなく教育現場・医療現場・お店などにも展開していきたい。

⑤情報発信について

- ・広報誌やホームページ、あしやネット、またSNSで発信していくのは幅広い周知の上で大変重要と感じる。特に芦屋市の未来を担う若い世代へ芦屋市の福祉施策を知ってもらうことで協力を得られるのではないかと。
- ・今後も皆で工夫をしながら芦屋市の施策を外向きに広報できるようにしたい。
- ・情報入手、コミュニケーション手段について、その機会がどれくらい確保されているのか。もっと増やして欲しいという声はある。

⑥権利擁護について

- ・親亡き後のためにも、知的障がいのある人が成年後見制度を使いやすいものになるといい。
- ・高齢者の見守りと同じように、親のいない知的障がいのある人にも見守り対象として欲しい。

○障がい者団体インタビューまとめ

⑦その他意見について

- ・行政、親の会、NPO、事業所など障がい福祉関係者によるサービスの既存のサービスの効率化、潜在力の再確認を行い、足りないところはどこなのかを明確にして効率的に子どもや保護者のニーズに応えられる体制づくりが必要。
- ・障がいがあっても街に出ていき安心して買い物をしたり食事をしたりできるようになれたらと思う。
- ・地域の皆様にも、障がいのある子どもたちがどのくらいいてどう過ごしているのか、知ってもらえたらと思う。多様性社会の実現のため継続的な地域住民への理解、周知をお願いしたい。
- ・障がいに関するイベントに関わってもらうことが障がいを理解する1番の近道だと思うので、もっと広くいろんな人を巻き込んだ仕掛けができればいいと思う。
- ・計画を策定していくうえで、障がいのある人を中心に据えながら策定しているか問い続けて欲しい。
- ・まるっと説明会について、事業所間の職員が交流することで連携のスピードが上がったり、他事業所のことを知る機会になっており、とてもいい取組になっている。ただ、そういう活動で頑張ってくれている方が疲弊しないような配慮、評価される仕組みを考慮する必要がある。
- ・みんなにやさしいお店登録事業について、商工会などを通じて展開して欲しい。障がいのある人が行きやすいお店、くつろげるお店、理髪店、などリスト化して行ってほしい。
- ・精神疾患は、就学～20代半ばまでに症状が出始める方が多いため、予防・早期発見・早期支援などの施策構築が必要。早期支援で回復できる可能性も高まる。
- ・精神疾患は、身体障がい・知的障がいと違い、理解されにくいように感じる
- ・福祉職の処遇改善は国でもされているが、市の独自事業として何かできればいいと思う。
※大阪市が介護職に対する助成をしていた
- ・大阪市中で実証実験をしている「AIオンデマンド交通」のように、乗合タクシーのような仕組みができれば送迎の課題も少しは解決するのではないかと。※市長公約にも挙げられていた
- ・芦屋市だけで何かをしようとすると難しいので、広域的に実施できることがないか検討して欲しい。
- ・ユニバーサルデザイン、バリアフリー、合理的配慮などの理解を深めるため、障がいの有無に関わらず地域の方や民生福祉関係者も参加できるような福祉学習などの参加者から福祉サポーターの希望者を募り、啓発活動などに参加協力してもらえればと思う。